

覺

淀川大和川江落合候川上ハ、山々開畑山畑停止、向後林ニ被仰付候、領内又ハ其近邊御料私領共ニ、手寄次第一ヶ年二三度宛、家來差遣、無油斷、林仕立候様ニ可被申付候、山割并奉行人申付様等ハ、御勘定頭中江可被相伺候、以上、

八月

寛保二戌年二月

川邊通り御林等之儀ニ付御書付

御勘定奉行江

一河邊通り之御林、其外百姓持山ともに、所々伐拂地新畑ニ開候儀ハ、堅仕間敷候、伐拂不申候而難成節ハ、右跡地ハ御林ニ相成候様ニ、心掛ケ可申候、百姓も可爲同斷事、

一河邊通り之御林、彌立置、枝多キハ下枝をおろし、木込合候所ハ、剪透シ候様可仕事、

一山中御林、大木ニ而御用可立分ハ、彌立置其外ハ、百姓願候ハ、伐拂跡地ハ開發申付可然事、

一山々より土砂押出候所々之川端通り江ハ、雜木を植付立、次第見合伐拂、其後元のごとくにし

事、
びり候ハ、又伐拂、追々右之通ニ仕候ハ、根入深相成、河端通り土砂押出シ候抱ニも可相成

右之通、御代官共江可被申渡候、

二月

〔吹塵録〕文久三亥年正月

大目付江

今度帝都四方山嶽之立木、勝手ニ切拂候義、向後可爲停止候、併民間柴薪之憂も可有之候間、下草